

## 本時のねらい

- ・ There is ~ . / There are ~ . の文を使って、相手と対話することができる。
- ・ 必要に応じて iPad を活用し、自分で学習に取り組むことができる。

## 本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・ デジタル教科書から流れてくる音声を何度も繰り返し聞くことにより、自分のペースで対話練習に取り組むことができる。
- ・ デジタル教科書のルビ機能、ハイライト機能等を必要に応じて使えるようにしておくことで、学習に対する安心感につなげる。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ 指導者用デジタル教科書（開隆堂「SUNSHINE ENGLISH COURSE 1」）
- ・ 学習者用デジタル教科書（開隆堂「SUNSHINE ENGLISH COURSE 1」）
- ・ 大型モニタ
- ・ ドリルアプリ（東京書籍）

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (15 分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○帯活動 Word Test : 単語テストを実施し、解答例を見て各自で丸付けをする。【写真 1】</li> <li>Music : 大型モニタを使って音楽を流し、iPad に表示された歌詞を見ながら歌う。【写真 2】</li> <li>New Words : 大型モニタに単語を表示し、全員で発声練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○iPad に解答例を配信することで、板書で解答例を示すより視線の移動を軽減させる。</li> <li>○iPad に歌詞を表示することで、自分のペースでスクロールして見ることができるので安心して活動に取り組める。</li> <li>○大型モニタに英単語を大きく映すことで、生徒はつづりに注目しながら英単語を読むことができる。</li> </ul>
展開 (30 分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Listening - 大型モニタを使いデジタル教科書を読み上げる。生徒は学習者用デジタル教科書に聞き取った内容をメモする。</li> <li>- メモした内容は班活動で確認する。</li> <li>○Scenes - 指導者用デジタル教科書を使い、大型モニタに対話動画を字幕なし、次に字幕ありで投影する。</li> <li>- 各自で学習者用デジタル教科書の対話読み上げ機能を使って練習し、その後実際にペアで対話する。【写真 3】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタル教科書へのメモは、書いたり消したりを容易に繰り返すことができるので、積極的に学習を進めることができる。</li> <li>○デジタル教科書に実装されているルビ機能、和訳の表示、速度の調整、字幕の karaoke 機能は必要に応じて生徒自身で設定できるので、個別最適な練習が可能となる。</li> <li>○英語の対話読み上げ機能は何度も再生することができるので、場面を思い浮かべて、相手に伝わるように、どのような対話をすればよいかを考えながら繰り返し練習することができる。</li> </ul>
まとめ (5 分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時で学習した内容を振り返る。</li> <li>○ドリルアプリで本時に学習した内容の基礎復習に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時で学習した内容を踏まえて問題を解き、間違えた問題の確認をその場で行い、定着を図る。</li> </ul>

## 1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真 1 : 単語テストの解答例を iPad で確認しながら丸付けをする様子

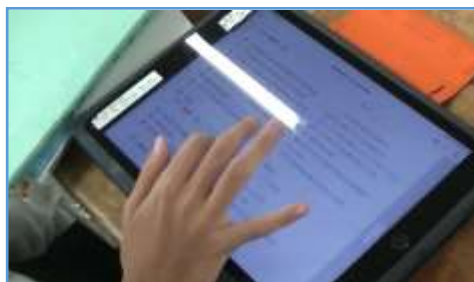


写真 2 : 歌う曲の歌詞を iPad で表示している様子

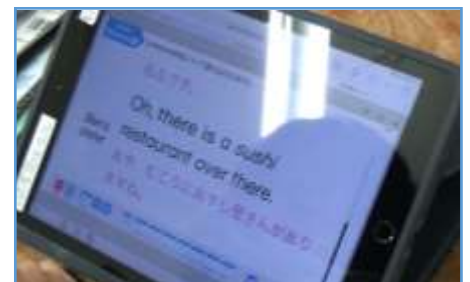


写真 3 : デジタル教科書の読み上げ機能を使って対話練習している様子

## 児童生徒の反応や変容

- ・ デジタル教科書やドリルアプリ等を用いることや、ルビ機能や対話読み上げ機能をいつでも使うことができるようにしておくことで、安心して学習に取り組むことができた。
- ・ 学習内容を何度も確認したり、振り返ることもでき、課題に対して生徒自身のペースで取り組むことができた。自分自身でやり遂げることにより、「できた」という思いを持ち、自己肯定感を高めることができた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・ 生徒自身が必要に応じて iPad を活用することで、自分自身でやり遂げようとする機会を増やすことができる。
- ・ 生徒が安心して意欲的に学習に取り組むことができるための環境を、予め準備しておくことが大切であると実感している。